

平成 27 年 9 月 28 日

小牧市長 山下史守朗 様

図書館友の会全国連絡会

代表 福富洋一郎

武雄市をモデルとした新図書館建設の再考を求める要望書

平素より小牧市政にご尽力なされていることに、心から敬意を表します。

私たち図書館友の会全国連絡会は、図書館づくり、図書館の応援団として全国各地で活動をしている団体・個人の全国組織です。会発足から 10 年余、毎年、総務大臣、文部科学大臣に要望・交渉など図書館の発展振興のための活動を行ってまいりました。

このたび、貴市が武雄市をモデルとした新図書館の建設計画を進めていること、また、この建設計画の是非を問う住民投票が行われることを知りました。私たちは、貴市がモデルとしている佐賀県武雄市図書館は、極めて大きな問題を抱えた図書館であると考えています。武雄市が情報公開に応じなかったため、指定管理者カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（CCC）が大量の「ごみ本」（売れ残れば中古書店はごみとして処分する本、マスコミ・ネットは「ごみ本」と言う。適切な言葉が見当たらずこれを使う）を大量に購入していたなどの選書問題が明らかになったのは、ようやく最近になってのことです。

加えて、武雄モデルを導入した神奈川県海老名市でも、同じく大量の「ごみ本」の購入計画が発覚しました。海老名市立図書館は CCC に株式会社図書館流通センター（TRC）が加わった共同事業体が指定管理者となり、その元に起きたことです。この 2 社は、貴市が想定する指定管理者と同じです。新小牧市立図書館建設基本計画は、武雄市と CCC をめぐる疑惑が明るみに出ていない段階において、武雄市をモデルとして作成したものであり、武雄市の実態が明らかになりつつある今、慎重に対応することを強く要望いたします。

【 要 望 】

1. 現在の新小牧市立図書館建設基本計画を白紙に戻し、再度検討してください
2. 10 月 4 日の住民投票の結果にかかわらず、上記 1. を市長として決断してください

【 説 明 】

1. 「住民投票の結果にかかわらず、市長として決断」ということは民意の尊重に反するように見えますので、誤解を招かないために説明します。

現在疑惑を起こして問題になっている民間企業に、その成果を期待し莫大な公費（税金）

を投入する事業を委ねることを避けるのは、為政者として当然のことと考えます。ましてや、疑惑のある企業に、疑惑を起しているのと同じ事業を委ねることは、市民に大きな損害を与える恐れがあることを分かっているながら、それを看過しているように思えます。住民投票にかける前に、市長が白紙・再検討を表明することが相応しいと考えますが、すでに投票日程も迫っていますので、上記の要望とする次第です。

また、一言付け加えれば、住民投票は、正確な情報の提供があつてこそ民意が正しく反映されますが、不都合な事実が伏せられるようなことがあれば、民意が誤って反映されることになりかねないことに危惧を持つからでもあります。

2. 今、武雄市図書館で顕在化した課題について説明します。

武雄市は平成 25 年 4 月、CCC（蔦屋書店、DVD レンタルショップ TSUTAYA、ツタヤ系列スターボックス、Tカード等を経営）を指定管理者として武雄市図書館をリニューアルオープンし、このことは、従来の図書館のイメージを一新した「新しい図書館モデル」として、マスコミも大きく報道し、優れた図書館の姿として国民の間に喧伝されました。この「新しい図書館モデル」は、CCC と樋渡前武雄市長独断のコラボレーションの所産であり、その最大の功労者である樋渡前市長は全国から招かれ、輝かしい成果として講演してきました。当然ながら、この目覚ましい「成功モデル」の跡を追う自治体も出てきました。貴市もその一つであろうと思います。

しかし、今、「新しい図書館モデル」をめぐる、CCC や樋渡前市長への疑惑をマスコミが一斉に取り上げ始めました。発端は、CCC がリニューアル開館時に選定購入した 1 万冊の中に「東京おいしい店ガイド 2000～2001」「公認会計士第 2 次試験 2001」「ラーメンマップ埼玉 2(1997 年刊)」などの「ごみ本」を、CCC 関連の古書販売会社ネットオフから買っていたと報じられたことにあります。このことで CCC は異例の謝罪文をネットで発表しました。

時を置かずに、武雄市に次いで「新しい図書館モデル」を導入した神奈川県海老名市（貴市と同じく、CCC に TRC を加えた共同事業体が指定管理者）でも、武雄市と同じように「ごみ本」が発覚しました。10 月 1 日のリニューアルオープンに向けて、今年度 1 万冊購入予定のうち、8343 冊の購入リストが明らかになりましたが、武雄市と同様に古書が多く、加えて、半数の 4126 冊を料理本が占めること、「アイミクロンメガネクロス」20 件（本と言うよりは「メガネ拭きの布」である）や 40 年から 10 年前くらいのさまざまな雑誌を含んでいることが明らかにされました。購入リストはネットで公開されていますので、直接ご覧になって、ご自身でご確認いただくよう要望します。どんなにひどい内容であるか、お分かりになると思います。（URL を本要望書末に付記）

このようなことが起きる背景は、指定管理者制度のもとでは例えば年間 2 億円の指定管理料で 1 億円が残れば、その 1 億を指定管理会社の取り分とする契約が通常的なされて

いることにあります。海老名市でも通常の契約がなされていれば、最低1万冊の本を安く購入すればCCCの利益は増えることになります。利益を優先させる民間会社のもとでは、きちんとして本を選択購入しようということもなくなります。安い本を買って、選書もいい加減となれば、蔵書の質は落ち、利用者の足は遠のき、図書館への信頼は失われます。CCCはこのような図書館運営を行ってきたのではないのでしょうか。

加えて、樋渡前武雄市長が、民間社団法人「巨樹の会」の理事に今年6月、CCC子会社「ふるさとスマホ株式会社」の社長に7月、就任していたことが明らかになりました。「巨樹の会」は武雄市立病院の民営移譲法人であり、「ふるさとスマホ株式会社」は武雄市図書館の指定管理会社CCCの子会社であったことから、マスコミが取り上げ、多くの人を驚かせました。また、武雄市図書館の改修に伴って締結された二つの業務委託契約の内容が「ずさんで違法」として、住民が現武雄市長を相手に、委託費約1億8000万円を当時の責任者の樋渡前市長に損害賠償請求するよう求める裁判が、現在起きています。

3. 武雄市とCCCを巡る疑惑について説明します。

武雄市及びCCCを巡る疑惑は、①武雄市は税金を使って民間会社CCCに便宜供与を図ったのではないかと、②その隠れ蓑として武雄市図書館を利用し、図書館を壊しボロボロにしたのではないかと、ということです。武雄市で何があったのか、貴市でも十分に調査されていることと思いますが、私たちの把握している疑惑、問題点の一端について、ご参考までにお伝えします。

(1) 指定管理料の用途が明らかにされてないこと。例えば蔦屋書店店員と図書館担当社員の区別がないので、公費(税金)で蔦屋書店店員のほぼすべてをまかなっていることもありえないことではないこと。その他便宜供与と見えるもの(例えばテナント料、光熱費負担、商業施設の宣伝料等)は多数あります。

(2) CCC営業と競合する多くの資料が図書館から排除されたこと。CCCの要求で、DVDレンタルショップTSUTAYAにするために、当初計画にない蘭学館が廃止されてしまったこと。

(3) CCCの商業店舗を作るために4.5億(追加工事を除く)の公費(税金)で改修を行ったこと。入口付近の主要部分をCCCの商業店舗に与えたこと。

(4) 指定管理業者選定に当たっては、定められた手続きを踏まずに、市長の独断でCCCを指定管理者とする基本合意書を契約したこと。

(5) 安全性をおろそかにした改修計画から、図書館部分に問題が多発したこと。

①2階バルコニーに冷暖房設備が無く中間期でも異常な高温となり、急遽巨大なシーリングファンを取り付けたが殆ど効果が無い。②2階バルコニー壁の4メートル高層書架に本の落下防止を取り付けたがその効果に疑問が指摘されている。③2階バルコニーの避難経路が不十分で、建築基準法違反状態が放置されている。④図書館部分の書架が、JIS規

格でないと思われるCCC仕様で製作されており、その安全性・耐用年数などが不明で、火災・地震等の災害時対応が十分に検討されていない。

(6) その他、Tカード採用による個人情報漏洩の危険性の問題、全国統一的NDC方式を採用せず、独自の武雄市21進分類法で配架しているため、今でも書架の整理が不十分な状態が続いている問題など。

以上、要望の趣旨を3点にまとめ説明いたしました。改めて申し上げるまでもなく、市民に開かれた地方自治を進めるために、「情報公開」「説明責任の遂行」「透明性の確保」の3原則は欠かせません。このことが生きていなければ、その地方自治体は市民の信望を失います。貴市が「新しい図書館モデル」としている武雄市図書館はこの3原則を満たしていないために大きな課題を抱えています。

CCCとTRCの共同事業体を指定管理者として「新しい図書館モデル」を目指している海老名市では、武雄市図書館で「ごみ本」発覚直後に、市議会だけでなく行政(市長、教育長)も不安を感じ、具体的にチェックしてみると、武雄市図書館と同様「ゴミ本」の購入計画が進んでいました。海老名市の議会、行政が不安を感じていたように、指定管理者である民間会社が力を持っており、行政(市長、教育長)のコントロールがきかない民間会社だということが分かりました。私たちの見るところでは、逆に民間会社が行政をコントロールしているかのように見えます。このような民間会社を公立図書館の指定管理者にして良いのでしょうか?絶対にしてはならないと思います。

ここに及んで、新小牧市立図書館建設基本計画を一旦白紙に戻すことの難しさは、私たちにも理解できることではありますが、それができるのは山下史守朗市長のみと考えます。市民から英断と称される決断をしてくださいますことを心から要望いたします。

【参考】

海老名市立図書館の選書リスト (海老名市議会議員 山口良樹氏の公式ホームページ)

<http://www.yoshiki-yamaguchi.com/report7sokuho.html>

<http://www.yoshiki-yamaguchi.com/SenshoList1.pdf>

<http://www.yoshiki-yamaguchi.com/SenshoList2.pdf>

連絡先： 図書館友の会全国連絡会 事務局長 船橋佳子
※ (住所・TEL 省略)

※個人情報保護の観点より事務局の連絡先はホームページでは非公開とさせていただきます。お問い合わせは図友連 HP <http://totomoren.net/> メールフォームよりお願いいたします。

【追記：注】「新小牧市立図書館建設基本計画」とあるのは、平成 21 年度に策定した同計画ではなく、ここでは山下市長が進めている「現在の新図書館建設計画」を指しています。